

九州大学特定大型教育研究プロジェクト一覧表

平成30年5月1日現在

採択年度	最終年度	プログラム名	プロジェクト名	概要	参考資料等
平成24年度	平成30年度	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	分子システムデバイス国際研究リーダー養成および国際教育研究拠点形成	本プログラムでは、最先端分子システムデバイス科学の構築により、他の追随を許さない次世代の産業コアの形成に資するため、産官学が一体となった教育研究チームを形成し、高度な最先端分子系材料科学の研究を自ら推進でき、さらに、幅広い科学技術に対する俯瞰力を兼ね備え、国際社会でリーダーとして活躍できる人材を育成する。そして、高度な研究開発の専門性の深化に加え、研究マネジメント、知的財産権、経営政策、国際戦略等に対しても俯瞰できる人材の輩出を目指す。科学技術の研究は、高い論理的思考と考察力を求められることで閉じた思考に陥りやすいが、人間性が豊く、リーダーとなっている人は、情熱と理性の調和を保ち、小さくまとまらず、チャレンジを忘れない。本教育プログラムでは、“分子システムデバイス科学”をコアに、研究者としての科学的なポテンシャルを高めながら、研究開発へのチャレンジ精神、俯瞰力をもって国際的に活躍できるスーパーリーダーの育成を目指す。“最先端分子システムデバイス科学”、“研究に対する情熱・発想力”、“研究マネジメント力”、“国際性”を身につけることで、基礎研究から出口を見据えた応用研究までの一貫した研究開発のスーパーリーダーを育成する。	URL http://molecular-device.kyushu-u.ac.jp/
				概要等 https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/files/loader/ir/public/project/project_01.pdf	
平成24年度	平成30年度	博士課程教育リーディングプログラム (文部科学省)	グリーンアジア国際戦略プログラム	本教育プログラムは、グリーン化と経済成長を両立したアジア (グリーンアジア) の実現に資する理工系リーダーの養成を目的とする。資源消費の飛躍的削減と経済成長との両立は人類社会の課題である。そしてアジアは、文化・社会的な多様性を内包し、経済成長と環境問題との相互矛盾を抱えつつも、活力あるメルティングポット状態となって発展しつつある典型的なモデル地区としての意味を有する。 世界の国々が化石資源大量消費に由来する環境・資源制約を回避しつつ持続的な経済発展を遂げるためには、資源消費量低減とGDP増大との両立という、人類が実現したことのない成長戦略が求められる。今世紀、貧富差の拡大、グローバル化が持つ負の側面の顕在化、アジア諸国のエネルギー消費の急増と化石資源の価格高騰の中で我が国が貢献すべきは、欧米主導型と一線を画したグローバルモデルの提示によるグリーンアジアの実現にある。グリーンアジア国際戦略とは、アジア・オセアニア圏の各国の歴史と文化に根ざした社会・産業・経済の自律的・持続的な発展を基本としたソフトな、かつグリーン化と成長との相乗効果をもたらす強固なグローバルネットワーク形成によってグリーンアジア実現を図るものである。	URL http://www.ti.kyushu-u.ac.jp/loading/
				概要等 https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/files/loader/ir/public/project/project_02.pdf	
平成25年度	平成31年度	博士課程教育リーディングプログラム (文部科学省)	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	われわれ人類はいま、地球環境と文明社会の持続可能性という大きな課題に直面している。そして、気候変動・市場のグローバル化・急速な人口変動などの諸課題に対して、さまざまな決断に迫られている。このため、これからの時代を牽引するグローバルリーダーには、専門分野における世界でトップレベルの業績 (専門性)、持続可能性に関する広範な知識 (学際性) に加え、専門・学際科学の成果を統合し課題解決への決断を下すための新たな学識 (統括性) を持つことが求められる。またグローバルリーダーには、国際社会においてプロジェクトを提案し、明確なプレゼンテーションによって人々を説得し、さらに課題解決に向けての協働作業を組織・推進する指導力が必要とされる。 本プログラムではこの要請に応えるために、3つの学識 (専門性・学際性・統括性) と4つの実践的能力 (国際力・研究提案力・プレゼンテーション力・指導力) を修得できる5年一貫のカリキュラムを大学院生に提供する。	URL http://ketsudan.kyushu-u.ac.jp/
				概要等 https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/files/loader/ir/public/project/project_03.pdf	
平成28年度	平成32年度	大学の世界展開力強化事業 (文部科学省)	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム	本事業は、九州大学総合理工学が平成27年度まで遂行してきたキャンパスアジア事業による「エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム」を引継ぎ、(1)これまでに構築してきた「エネルギー環境理工学分野で、修士課程の標準修学年限内 (九大と釜山大では2年、上海交通大学では2.5年) で、半年の留学により質保証を備えたダブルディグリー (DD) が得られるパイロットプログラム」を高度化/制度改良した上で正規プログラムとして定着/恒常化すること、(2)プログラムの一環であるサマースクールや国際研究セミナーをオープン化することにより、より多くグローバル人材の涵蓋をはかると共に、キャンパスの国際化、グローバル化に貢献すること、(3)博士課程でのDD又はジョイントディグリー (JD) が取得できるプログラムを新たに構築することである。	URL http://www.ti.kyushu-u.ac.jp/campus-asia/
				計画調査 https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/files/loader/ir/public/project/project_04.pdf	
平成28年度	平成32年度	大学の世界展開力強化事業 (文部科学省)	アジア都市・建築環境の発展的持続化を牽引する人材育成のための協働教育プログラム	急激な成長都市を抱えるアジア諸国では、資源・エネルギー需要の増大、都市温暖化、大気汚染など都市・建築環境の悪化が国境を跨ぐ国際的な問題となっている。そこで、都市・建築分野では、地球環境に配慮した循環型社会や環境負荷の少ない低炭素社会の構築など、国際的な環境問題を解決するために、グローバルな視点に立脚した高度専門教育の推進が喫緊の課題である。一方で、歴史・文化に基づく地域社会固有の問題もあるため、国際基準に準拠したローカルな実践的教育が要求される。特に、多様な歴史・文化・伝統が複雑に混在し、都市・建築に係る深刻な環境問題を抱えるアジアにおいて発展的持続化を図るには、都市・建築の全体を周辺領域まで俯瞰し、生活環境の実態や社会的・文化的背景の理解に基づいて個々の技術や政策を総合化し、環境施策を実践する人材育成が必要である。そのためには、現地で課題を把握・考察し、解決策を導き出し、実践して学ばせること (実践学知の経験) が極めて有効となる。つまり、国境を越えた学びの場を提供し、アジア都市・建築の多様性を共有しながら、教育の質を保証した教育プログラムを国際的に広く普及させることが重要になる。	URL http://suae-casia.arch.kyushu-u.ac.jp/
				計画調査 https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/files/loader/ir/public/project/project_05.pdf	